

ペット一般教養 I

ドッグトレーナー科

1年次

後期

15時間

必修

共通科目

1単位

講義

教養的科目

■授業の概要

就職セミナー(業界就活事情、社会人の心構え、履歴書かき方、自己分析方法)

■到達目標

社会人の心構え、履歴書の書き方などの理解をする

■成績評価の方法等

出席点、提出物

■授業計画

回数	授 業 内 容
1~2	履歴書の書き方 前提、履歴書選び方、注意点、自己PR・志望動機・特技・趣味以外の記入方法
3~4	ペット業界の現状 就活ステップ、就活スケジュール
5~6	自己分析 自己年表、長所・短所シート作成
7~8	自己PR ポイント、書き方
9~10	履歴書作成
11~12	志望動機 ステップ、書き方ポイント
13~14	履歴書作成
15	履歴書作成・完成 履歴書完成した学生は志望動機

特別活動 I

ドッグトレーナー科

1年次

通年

60時間

必修

共通科目

2単位

講義

教養的科目

■授業の概要

スクールフェスティバルや校外学習等を通じて、協調性や課題発見力等を養う

■到達目標

協調性、課題発見力を身につける

■成績評価の方法等

出席点、提出物、レポート

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～5	球技大会
6～8	専科説明会
9～10	衛生管理
11～12	ペット防災訓練 衛生管理
13	資格試験（NAVVAペットケアアドバイザー）
14～43	スクールフェスティバル 出店の準備から本番まで行う
44～50	校外学習（特定飼養動物）
51	進級説明会
52～53	衛生管理
54～55	衛生管理
56～60	I P Cグループ ゼミ発表会

共通基礎

ドッグトレーナー科

1年次

前期

60時間

必修

共通科目

2単位

実習

専門基礎科目

■授業の概要

犬との接し方や道具の使い方等、犬を扱う上で必要となる基本的な知識・技術を学ぶ

■到達目標

犬を扱う上での基本的な知識。技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～2	犬とは
3～5	社会人マナー、施設利用方法・案内、レクリエーション
6	人と犬の歴史 犬の起源、進化
7	犬の形態機能学的特徴
8	飼育する責任（動愛法とは、意識する項目）
9～10	レクリエーション
11	手入れと健康
12	飼育記録の必要性、記入方法、健康管理①
13～15	犬の触り方、行動管理
16	健康管理②
17	日常ケア①
18～20	飼育実習①(健康チェック、ケア、サークル出入)
21	健康管理③
22	日常ケア②
23～25	飼育実習②(健康チェック、ケア、散歩)
26	衛生管理
27	教材配布
28	食事管理
29～30	飼育実習③(健康チェック・ケア、散歩、クレート衛生管理)

31	週末実習について（インターンシップ、飼育管理実習説明）
32	ベISINGとは、ベISING方法・注意点
33～35	飼育実習④（健康チェック・ケア、散歩、クレート衛生管理）
36	ブラッシングとは
37	交通安全
38～40	飼育実習⑤（健康チェック・ケア、散歩、クレート衛生管理、シャンプー）
41	季節ごとの管理 動物に影響を与える条件、各季節の注意点
42	施設利用方法注意
43～45	飼育実習⑥（健康チェック・ケア、散歩、クレート衛生管理、シャンプー）
46	爪切り、イヤークア 道具の使用方法・注意点
47	犬の本能行動の問題 本能と習性、社会構造、コミュニケーション、社会的距離、問題行動、問題行動の原因
48	教材配布
49～50	飼育実習⑦（各自今までの内容を復習しながら実施）
51～53	飼育実習⑧（各自今までの内容を復習しながら実施）
54	総復習
55	自己啓発
56～57	飼育実習⑨（各自今までの内容を復習しながら実施）
58	総復習
59	定期試験
60	今後について

各科実習

ドッグトレーナー科

1年次

前期

60時間

必修

共通科目

2単位

実習

専門基礎科目

■授業の概要

所属する科に関わらず、美容、訓練、看護、繁殖の基礎を学ぶ

■到達目標

美容・訓練・看護・繁殖の基礎的知識・技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

回数	授 業 内 容
1～2	グルーミング ・ブラッシング、ネイルカット、イヤークア
3～4	バイシング ・肛門腺位置確認、肛門腺絞り ・シャンプー手順 ・ドライヤー使用方法
5～6	クリッピング ・趾裏、お腹、肛門クリップ
7～8	鉋の開閉 ・趾周りカット ・趾裏カット、肛門周りカット
9～10	部分カット 桃尻、アンダー、エプロン、前肢飾り毛、耳飾り毛、尾カット
11～12	アタッチメントコームを使用したトリミング方法 スピードトリミング（鉋仕上げなし）
13～14	リボン付け
15～16	シャンプーセット シャンプー、ドライ、趾周りカット
17～18	グルーミング復習 ・ブラッシング、ネイルカット、イヤークア
19～20	犬をしつける目的と訓練の進め方 ・しつけと訓練の違い ・褒める時・叱る時のポイント ・リーダーシップをとるために
21～22	基本服従5項目（命令の出し方） ・指示の出し方 ・従わなかった時の対応の仕方 ・リード操作の仕方、注意点
23～24	しつけの時期・時間、遊びの重要性 ・パピートレーニング ・犬との遊び、その重要性 ・犬が喜ぶ訓練を心がけるために
25～26	モチベーター・報酬の種類、与える際の注意点 ・メリット・デメリット

27～28	基本服従 5 項目の教え方手順 ・ポイント、注意点
29～30	基本服従 5 項目を利用した遊び
31～32	保定とは ・立位、座位、横臥位の手順、注意点 ・口輪装着方法 ・体重測定
33～34	耳道洗浄・歯石除去・眼洗浄 手順、注意点
35～36	薬剤の投与 I（錠剤、液剤、点眼、点耳） 手順、注意点
37～38	バイタルサインの測定（体温、脈拍、呼吸） 手順、注意点
39～40	薬剤の投与 II（粉剤、軟膏） 包帯法の手順、注意点
41～42	緊急対応 手順、注意点
43～44	犬の測定方法（スタンダードと個体の違い） ・体長、体高、胸囲、胴囲、正姿勢について
45～46	繁殖学基礎① ・基礎 ・発情生理 ・交配の流れと精液組成 ・発情犬と雄犬の反応
47～48	繁殖学基礎② ・妊娠とは ・偽妊娠とは ・妊娠診断 ・胎児の成長
49～50	繁殖学基礎③ ・分娩の管理 ・子犬の成長と管理 ・母犬の管理
51～52	給餌の重要性 ・餌量計算基礎 ・実例での計算練習
53～54	餌量計算（実践） ・担当犬の給餌量決定 ・犬種、季節における変化等 ・餌種変更方法
55～56	専攻学科の初回授業 科の目的、授業目標など
57～60	定期試験

動物形態機能学 I

ドッグトレーナー科

1 年次

前期

30 時間

必修

共通科目

2 単位

講義

専門基礎科目

■授業の概要

犬猫を中心に動物の身体の構造、機能を理解し、なりやすい疾患について学ぶ

■到達目標

犬猫の形態と機能、なりやすい疾患について理解する

■成績評価の方法等

出席点、資格試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1	・形態機能学とは ・疾患学とは
2	骨格系① ・役割、形状、骨格名称、骨格分類、椎骨式
3	骨格系② ・代表的疾患【骨折、脱臼】
4	骨格系③ ・代表的疾患【股関節形成不全、軟骨形成不全、関節炎】
5	筋肉系① ・役割、構造、筋肉・腱・靭帯違い ・代表的疾患【前十字靭帯断裂、多発性筋炎】
6	神経系① ・役割、構造 ・代表的疾患【椎間板ヘルニア(ヘルニアの種類)、水頭症、泉門、癲癇】
7	内分泌系① ・役割、構造
8	内分泌系② ・代表的疾患【クッシング症候群、アジソン病、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症】
9	感覚器系①【聴覚】 ・役割、構造 ・代表的疾患【外耳炎、耳血腫】
10	感覚器系②【視覚】 ・役割、構造 ・代表的な疾患【白内障、緑内障、角膜炎、瞬膜腺突出】
11	感覚器系③【味覚】 ・役割、構造 ・代表的な疾患【歯石、歯周病、口内炎】
12	感覚器系④【皮膚感覚】 ・役割、構造 ・代表的疾患【膿皮症、脂漏症】
13	感覚器系⑤【嗅覚】 ・役割、構造 ・代表的疾患【鼻炎、副鼻腔炎、鼻出血】

14	基礎、骨格系、筋肉系、神経系、内分泌系、感覚器系の復習
15	消化器系① ・役割、構造
16	消化器系② ・代表的疾患【下痢、便秘、肛門嚢炎、腸閉塞、巨大食道】
17	肝胆道系① ・役割、構造 ・代表的疾患【黄疸、肝炎、肝リピドーシス】
18	膵臓① ・役割、構造 ・代表的疾患【インスリノーマ、膵炎、糖尿病】
19	泌尿器系① ・役割、構造 ・代表的疾患【膀胱炎、ネフローゼ症候群、尿路結石症】
20	腎臓① ・役割、構造 ・代表的疾患【腎不全、腎盂腎炎】
21	生殖器系①（雄） ・役割、構造 ・代表的疾患【前立腺肥大、包皮炎、精巣停留】
22	生殖器系②（雌） ・役割、構造 ・代表的疾患【膣炎、子宮蓄膿症、乳腺腫瘍】
23	消化器系、肝胆道系、膵臓、泌尿器系、腎臓、生殖器系の復習
24	呼吸器系① ・役割、構造 ・代表的疾患【気管支炎、肺炎、気管虚脱、水胸・気胸】
25	循環器系① ・役割、構造
26	循環器系② ・代表的疾患【心不全、門脈体循環シャント】
27	血液・リンパ系① ・役割、構造 ・代表的疾患【高血糖、低血糖、貧血、リンパ腫】
28	腫瘍系疾患① ・腫瘍とは、分類、特徴、ステージ、予防、治療
29	呼吸器系、循環器系、血液・リンパ系、腫瘍系疾患の復習
30	試験対策

動物感染症学 I

ドッグトレーナー科

1 年次

前期

30 時間

必修

共通科目

2 単位

講義

専門基礎科目

■授業の概要

病原体になりうる微生物の感染予防方法を理解し、動物に健康維持に努める

■到達目標

ズーノーシス、寄生虫等の生態等を理解し、感染予防方法を身につける

■成績評価の方法等

出席点、試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1	下痢と嘔吐 ・観察する内容 ・種類、原因、対処法
2	応急処置が必要な症例①【日射病・熱射病・低体温症】 ・原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
3	応急処置が必要な症例②【胃拡張・胃捻転】 ・原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
4	応急処置が必要な症例③【外傷、火傷、骨折】 ・各症例の状態、原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
5	応急処置が必要な症例④【痙攣、発作、溺れる、窒息、ショック】 ・各症例の状態、原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
6	応急処置が必要な症例⑤【眼球突出、感電、中毒】 ・各症例の状態、原因、症状、なりやすい犬種、処置、予防
7	寄生虫 ・寄生虫とは、宿主、寄生虫の分類 ・腸管内寄生虫の基礎知識 ・外部寄生虫の基礎知識
8	腸管内寄生虫①【回虫、鉤虫、鞭虫】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染
9	腸管内寄生虫②【瓜実条虫、マンソン裂頭条虫】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染
10	腸管内寄生虫③【コクシジウム、腸トリコモナス、ジアルジア】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染
11	内部寄生虫【フィラリア】 ・特徴、寄生部位、症状、ライフサイクル ・予防、投薬の注意 ・診断、治療、など
12	外部寄生虫①【ノミ、マダニ、アカラス】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染
13	外部寄生虫②【ヒゼンダニ、ミミヒゼンダニ、ツメダニ、ハジラミ】 ・形態、宿主、寄生部位、感染経路、症状、人への感染、注意事項、予防方法

14	滅菌と消毒① ・用語説明
15	滅菌と消毒② 【滅菌法】【消毒法】
16	滅菌と消毒③ 【消毒法】
17	滅菌と消毒④ ・各消毒薬の効果的な使用方法
18	不妊措置 ・犬猫の繁殖制限、目的、子供を産ませない方法(各方法利点・欠点)
19	ワクチンプログラム ・ワクチンとは、必要性、接種時・後の注意点、副作用、ワクチンの種類
20	狂犬病ワクチン・混合ワクチン ・それぞれの特徴 ・ワクチンプログラム ・混合ワクチンの種類・選択方法
21	犬の混合ワクチンで予防できる感染症
22	猫の混合ワクチンで予防できる感染症
23	幼齢動物の管理
24	高齢動物の管理
25	ズーノーシス① ・ズーノーシスとは ・学ぶ意義 ・狂犬病 ・猫ひっかき病
26	ズーノーシス② ・破傷風 ・トキソプラズマ ・皮膚糸状菌症 ・幼虫移行症
27	ズーノーシス③ ・ノミ刺し症 ・アニサキス症 ・食中毒を引き起こす病原体 ・レプトスピラ
28	ズーノーシス④ ・オウム病・マダニが媒介するズーノーシス ・ズーノーシスが増加した要因、予防方法
29～30	試験対策

動物健康管理

ドッグトレーナー科

1年次

前期

15時間

必修

共通科目

1単位

講義

専門基礎科目

■授業の概要

健全な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育法について理解し、飼い主指導に活かす

■到達目標

犬猫の健康管理に必要な日常ケア方法、適正給餌方法を理解する

■成績評価の方法等

出席点、試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

回数	授 業 内 容
1	美容の必要性 ・グルーミングとは ・健康管理上の必要性と美的側面
2	グルーミング用品の基礎知識 ・クリッパー ・趾裏、お腹、肛門クリップ説明
3	鋏説明 趾周りカット ・方法、注意事項
4	部分カット説明 ・桃尻、アンダー、エプロン、前肢飾り毛、耳の飾り毛、尾のカット
5	スピードトリミング ・スピードトリミングとは ・アタッチメントコームの説明
6	リボン付け ・つけ方説明
7	グルーミング時に起こりうる事故 ・事故、処置法、予防
8	ライセンス前復習
9	・給餌学とは ・食餌の目的 ・食餌を与える上で考慮すべき点
10	食餌の種類 ・利点、欠点 ・フードを選択 ・市販フード表示、購入時・後の注意点
11	食餌の回数や量を決めるにあたっての注意点 ・飲み水の必要性 ・給餌の際注意する事(犬・猫)
12	犬猫の食性 ・食欲増進方法 ・犬猫に与えてはいけないもの①
13	・犬猫に与えてはいけないもの② ・ライフステージ別の管理

14	栄養素①(炭水化物、脂質、タンパク質) ・各栄養素の特徴、過剰・欠乏で起こりうる症状
15	栄養素②(ビタミン、ミネラル、水) ・各栄養素の特徴、過剰・欠乏で起こりうる症状

動物医療関連法規 I

ドッグトレーナー科

1年次

前期

15時間

必修

共通科目

1単位

講義

専門基礎科目

■授業の概要

動物愛護及び管理に関する法律等の責務や規制事項を学ぶ

■到達目標

動物に関わる法規について理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1~2	法律とは
3~4	動物の愛護及び管理に関する法律① ・法のあゆみ ・目的(概要) ・飼主の責任 ・動物取扱業の規制
5~6	動物の愛護及び管理に関する法律② ・第一種取扱業と第二種取扱業 ・動物取扱責任者、展示方法、販売方法
7~8	動物の愛護及び管理に関する法律③ ・特定動物 ・危険動物の飼養規則 ・犬及び猫の引き取り措置等
9~10	動物の愛護及び管理に関する法律④ ・負傷動物の通報 ・実例と対処法 ・災害時の対応
11~12	その他の動物関連法規 ・身体障害(害)者補助犬法 ・狂犬病予防法 ・犬等の輸出入検疫規則 他
13~14	社会人として知っておくべき法律 ・個人情報の保護に関する法律 ・労働基準法 ・労働安全衛生法 他
15	定期試験

動物行動学

ドッグトレーナー科

1年次

前期

30時間

必修

共通科目

2単位

講義

専門基礎科目

■授業の概要

- ・ 基本理念、本能行動の理解、行動発現のしくみ、犬と猫の主な問題行動と対処法を学ぶ
- ・ 犬種の特徴や性格を学ぶ

■到達目標

- ・ 犬の本能行動、行動心理を理解する
- ・ 各グループ、犬種の特徴性格を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1	第1章 動物行動学の基本理念 ・ 学習をする目的 ・ 犬と猫の進化と家畜化
2	第2章 維持行動 ・ 接食行動、飲水行動、排泄行動、身づくろい行動、休息行動 ・ 護身行動
3～5	第3章 社会行動 ・ 社会行動とは
6	第3章までの復習 ・ 確認テストの実施
7	第4章 行動発現の仕組み ・ 行動の動機づけ ・ 行動の周期性
8～9	第5章 行動の発達と学習 ・ 犬の発達段階、猫の発達段階 ・ 学習原理
10	第5章までの復習 ・ 確認テストの実施
11～12	第6章 問題行動と行動診療 ・ 問題行動とは ・ 行動修正法とは ・ 問題行動療法で用いるその他の方法
13～16	第7章 犬と猫における主な問題行動 ・ 犬・猫の攻撃行動 ・ 恐怖・不安行動と治療・猫の排泄行動の治療
17	復習時間 ・ 確認テストの実施
18～19	犬の飼育管理について ・ 血統書説明 ・ 犬体用語 ・ 各グループ特徴説明
20	第1グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明

21	第2グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
22	第3グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
23	第4グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
24～25	第5グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明 第6グループ説明 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
26～27	第7グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明 第8グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
28～29	第9グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明 第10グループ 特徴、原産国、サイズ、沿革説明
30	定期試験

伴侶動物 I

ドッグトレーナー科

1 年次

後期

30 時間

必修

共通科目

2 単位

講義

専門基礎科目

■授業の概要

エキゾチックアニマルや猫の生理、生態等から適正使用方法及び主な疾病について学ぶ

■到達目標

エキゾチックアニマルの特徴、猫種ごとの特徴等を理解する

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

回数	授 業 内 容
1～2	猫の歴史 ・飼育管理 ・適正な飼育について
3	猫の行動
4～6	血統書について ・顔の形 ・体型タイプ ・目の色、形 ・毛色と模様
7～10	各猫種説明 特徴、原産地、サイズ、沿革
11～12	ウサギ ・分類、品種、形態、習性、生理 等
13	ハムスター、モルモット ・分類、品種、形態、習性、生理 等
14	チンチラ、フクロモモンガ ・分類、品種、形態、習性、生理 等
15	ピグミーヘッジホッグ、デグー ・分類、品種、形態、習性、生理 等
16	スナネズミ(トビネズミ) マウス(ラット) ・分類、品種、形態、習性、生理 等
17	フェレット ・分類、品種、形態、習性、生理 等
18～19	鳥類基礎知識 ・分類、品種、形態、構造 等
20	フィンチ類 ・分類、品種、形態、習性、生理 等
21	インコ・オウム類 ・分類、品種、形態、習性、生理 等

22	<p>すり餌鳥、ニワトリ、ハト、水菌類、猛禽類</p> <p>・分類、品種、形態、習性、生理 等</p>
23	<p>両生類の基礎知識</p> <p>・分類、品種、形態、習性、生理 等</p>
24	<p>カエル、サンショウウオ、イモリ</p> <p>・分類、品種、形態、習性、生理 等</p>
25~26	<p>爬虫類の基礎知識</p> <p>・分類、品種、形態、構造 等</p>
27	<p>カメ、ヘビ</p> <p>・分類、品種、形態、習性、生理 等</p>
28	<p>トカゲ、カメレオン、イグアナ</p> <p>・分類、品種、形態、習性、生理 等</p>
29	<p>復習</p>
30	<p>定期試験</p>

専科実習

ドッグトレーナー科

1年次

通年

270時間

必修

専門科目

9単位

実習

専門科目

■授業の概要

犬の基本的な扱い方・命令の出し方（基本5項目など）、賞罰及び補助の与え方を学ぶ

■到達目標

ライセンス取得、訓練の基礎を習得する

■成績評価の方法等

出席点、資格試験、レポート

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

回数	授 業 内 容
1	初回ガイダンス
2～20	【基本訓練】・人の歩行訓練・リード操作・賞罰の手法などトレーニング基礎を学ぶ 【基礎知識】・訓練業に深く係る動物関連法規などを学ぶ
21～130	【基本服従訓練】・1人1頭の犬を担当し、基本服従6項目のトレーニング実習・各課題で小テストを実施。
131～150	【行動研究】・犬の行動学分野において、研究テーマを決め、1～2か月間の行動研究期間を設け、犬の行動調査の方法を学ぶ。（実験研究内容をまとめ、レポート提出）
151～160	【発表会見学】・進級準備として、同科2年生による発表会の見学。
161～230	【飼育実習】・担当犬について、飼育環境内、飼育時、お客様や担当者以外の人間に対して等、問題の有無・原因・改善レベル等を考え、それらに対する訓練計画をたて実行する。
230～270	【ライセンス対策】 ・ライセンスコース説明・ライセンスに向けての強化訓練・ライセンス模擬試験

インターンシップ

ドッグトレーナー科

1年次

通年

30時間

必修

専門科目

1単位

実習

職業実践科目

■授業の概要

インターンシップでは、お客様に対する接客技術を習得することを目的とし、提携先の株式会社アイピーシーにて実務研修を行う

■到達目標

実務研修を通して接客技術を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～10	インターンシップの必要性、業務内容の把握、あいさつの徹底
11～20	積極的にお客様に声をかける
21～30	報告・連絡・相談の徹底を図る スキルアップを図る

飼育管理実習 I

ドッグトレーナー科

1年次

通年

90時間

必修

専門科目

3単位

実習

職業実践科目

■授業の概要

多種・多頭数の生体の飼育管理能力と専門的技術の基礎力を増強する

■到達目標

多種・多頭の生体の管理方法を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～90	【ステップ1】 基本的な犬の扱い方や飼育方法を学ぶ 【ステップ2】 ケア技術の強化、消毒等の施設美化のスキル向上 当番制で実施するため、報連相のスキルアップ 【ステップ3】 各自の苦手克服を目的に、P D C Aを実践する

動物飼育実習 I

ドッグトレーナー科

1年次

前期

45時間

必修

専門科目

1単位

実習

職業実践科目

■授業の概要

展示動物の管理について、お客様の視線を意識した日常ケア等を通し基礎力を養う

■到達目標

展示動物の管理方法の基礎力を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート、その他評価(あいさつ、生体の扱い、社会人マナー等)

■授業計画

回数	授 業 内 容
1~45	基本的な犬の扱い方と健康管理を学ぶ

動物飼育実習Ⅱ

ドッグトレーナー科

1年次

前期

90時間

必修

専門科目

2単位

実習

職業実践科目

■授業の概要

日常ケア、体重コントロール、備品管理に対し、実務レベルでの管理濃色育成を目指す

■到達目標

担当犬に対しての日常ケア、備品管理等の管理能力を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート、その他評価(あいさつ、生体の扱い、社会人マナー等)

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～90	担当犬に対しての飼育記録のとり方 バイタルチェック、グルーミング、体重管理などの継続的な実践

動物飼育実習Ⅲ

ドッグトレーナー科

1年次

後期

90時間

必修

専門科目

2単位

実習

職業実践科目

■授業の概要

日常ケア、体重コントロール、備品管理に対し、実務レベルでの管理濃色育成を目指す

■到達目標

担当犬に対しての日常ケア、備品管理等の管理能力を身につける

■成績評価の方法等

出席点、レポート、その他評価(あいさつ、生体の扱い、社会人マナー等)

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～90	担当犬に対しての飼育記録のとり方 バイタルチェック、グルーミング、体重管理などの継続的な実践

ペット一般教養Ⅱ

ドッグトレーナー科

2年次

通年

30時間

必修

共通科目

2単位

講義

教養的科目

■授業の概要

就職セミナー、社会人準備、経営組織等についての概説

■到達目標

就職活動の基本を理解し、適切な準備と活動ができる

社会人に求められるコミュニケーションはどのようなものか理解し、卒業後の会社生活に活かすことができる

■成績評価の方法等

出席点、課題提出

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～8	就職活動セミナー 企業調査などの事前準備、活動する際のマナー、面接対策など
9～12	卒業研究について 研究の進め方、卒業レポートの書き方など
13～26	ペットビジネス 仕事で使う日本語、ビジネス用語、組織学など
27～30	社会人マナー 新入社員の心構え、社内マナーなど

特別活動Ⅱ

ドッグトレーナー科

2年次

通年

60時間

必修

共通科目

2単位

実習

教養的科目

■授業の概要

主な学校行事である球技大会、スクールフェスティバル、ゼミ発表会、校外イベント活動等の企画運営。また、グループ活動及び実行委員によるリーダーシップの育成を目的としている。

■到達目標

物事に対する事前確認の必要性や計画性を身につけ、コミュニケーションスキルの向上を図る。

ドッグトレーニング大会の入賞を目指し、団結力とチームワークを養う。

■成績評価の方法等

出席点、取り組み姿勢

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～5	球技大会 新入生との親睦を深めることを目的に実施する
6～35	スクールフェスティバル 実行委員をリーダーに学生企画、出店の準備から本番まで行う (IPC 番付出場者の練習会、本戦)
36～45	わんにゃんドーム IPC ブース内で、学生企画を実践する (全国ドッグトレーニング大会出場)
46～55	ゼミ発表 校内予選を行い、選抜された班は IPC グループ姉妹校との決戦に挑む
56～60	卒業準備 卒業に関わる手続き、卒業後のガイダンスなど

ゼミナール

ドッグトレーナー科

2年次

通年

30時間

必修

共通科目

2単位

演習

専門基礎科目

■授業の概要

課題研究と連動して動物の生体を研究する。プレゼン技術向上。

■到達目標

社会人スキルの向上及びコミュニケーション力の向上

卒業研究を通じてプレゼンテーションスキルを身につけ、表現力向上を図る。

■成績評価の方法等

出席点、取り組み姿勢

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～30	テーマ決め、計画書作成 計画書に則った実験を行う データ収集 プレゼンテーション作成

課題研究

ドッグトレーナー科

2年次

通年

45時間

必修

共通科目

3単位

演習

専門基礎科目

■授業の概要

卒業研究及び卒業論文の作成

■到達目標

課題発見力と問題解決力を身につける。課題発見から解決まで、主体的に行い、研究内容を説明できる。

■成績評価の方法等

出席点、卒業レポート、取り組み姿勢

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～45	ゼミナールにてデータ収集を行った資料を使用し、 中間発表を行う。 卒業レポートを作成する

高等訓練学

ドッグトレーナー科

2年次

通年

15時間

必修

専門科目

1単位

講義

専門科目

■授業の概要

臭気項目、介助項目、ドッグダンス、ディスクドッグ、アジリティなどの訓練方法を学ぶ

■到達目標

犬の学習理論について理解し、説明できる。

AAA活動の社会的意義を理解し、コーディネートできる。

■成績評価の方法等

出席点、資格試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

回数	授 業 内 容
1～4	・ガイダンス・犬の学習理論
5～6	嗅覚作業について
7～8	スポーツ・ドッグ
9～11	AAA活動について、補助犬法（訓練基準）
12～15	試験対策（模擬試験）

専科選択科目

ドッグトレーナー科

2年次

通年

45時間

必修

専門科目

3単位

講義

専門科目

■授業の概要

犬の問題行動に対する知識を深め、顧客に対するカウンセリング、アドバイス等の話術を学ぶ。また、犬の飼育に必要な基礎知識を学ぶ。

■到達目標

犬の問題行動に対し、共感スキルを使ってカウンセリングできる。
修正訓練の方法をわかりやすく、簡潔に説明できる。

■成績評価の方法等

出席点、資格試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

回数	授 業 内 容
1～4	ガイダンス
5～16	カウンセリング・テクニック ・カウンセリングとコンサルテーション ・犬の問題行動とその修正方法 排泄、無駄吠え、咬み癖、散歩中
18～20	【繁殖学】 ・発情、交配、妊娠・分娩、蘇生、哺育、社会化
21～28	【看護学】 ・問診のとり方、ノミダニの駆除方法・バイタルチェック ・六大栄養素について・消毒法について
29～30	試験

犬舎実習

ドッグトレーナー科

2年次

通年

90時間

必修

専門科目

3単位

実習

専門科目

■授業の概要

訓練犬の飼育管理および飼養施設の衛生管理。

■到達目標

日常生活における犬のしつけ、健康管理、ケアなどを繰り返し習得する

■成績評価の方法等

出席点、資格試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～90	バイタルチェック、グルーミング、体重管理などの継続的な飼養実践

飼育管理実習Ⅱ

ドッグトレーナー科

2年次

通年

220時間

必修

専門科目

7単位

講義

専門科目

■授業の概要

当番制で、ドッグトレーナー科使用犬の飼育管理および飼養施設の衛生管理を実施

■到達目標

病気などの早期発見・予防などグルーミングを通して読み取る力を養う

報告・連絡・相談などができる

■成績評価の方法等

出席点、定期試験

■授業計画

回数	授 業 内 容
1～220	ケア技術の強化、消毒等の施設美化のスキル向上 当番制で実施、報連相のスキルアップ、PDCAの実践

訓練実習Ⅲ-1 オビディエンス

ドッグトレーナー科

2年次

通年

120時間

必修

専門科目

4単位

実習

職業実践科目

■授業の概要

連携企業から提供された訓練犬に対し、基本服従6項目基本的な服従項目から競技会向け（中級）まで仕上げる。実習内容の性質から概ね70%の時間を継続訓練とする。

■到達目標

基本6項目（停座・伏臥・立止・静止各項目・招呼・脚側歩行）の訓練ができる
その訓練方法の基本と応用を理解し、説明できる

■成績評価の方法等

出席点、資格試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

回数	授 業 内 容
1～60	基本的な服従訓練（初級） ・紐付服従項目・ハウストレーニング・ゲーム性のある訓練内容 ・トレーナーに必要な基本動作と訓練の組立て方
61～100	応用服従訓練（中級） ・遠隔操作・紐無歩行・常歩中、速歩中、招呼中など ・中級レベルまたは苦手項目を訓練する際の工夫と組立て方
101～120	試験対策 ・コース説明・試験対策のポイント・模擬試験

訓練実習Ⅲ-2 パフォーマンス

ドッグトレーナー科

2年次

通年

90時間

必修

専門科目

3単位

実習

職業実践科目

■授業の概要

担当する訓練犬に対し、まわれ、股くぐり歩行などの一芸項目を実際に教えていき、ドッグダンスの構成からショーテクニックを実践する。実習内容の性質から概ね70%の時間を継続訓練とする。

■到達目標

マワレなどの服従項目以外の訓練ができる

その訓練方法の基本と応用を理解し、説明できる

■成績評価の方法等

出席点、資格試験

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

回数	授 業 内 容
1～16	パフォーマンス項目の基本的な教え方 必修項目：マワレ、エイト、ハードル、ロール、スタンド
17～60	必修項目および学生自身が選択した項目の継続訓練
61～90	パフォーマンス・ショーの企画・構成、練習 (10月、2月に開催)

専科選択実習

ドッグトレーナー科

2年次

通年

90時間

必修

専門科目

3単位

実習

職業実践科目

■授業の概要

しつけ教室（実習）、ふれあい活動（実地）、発表会などを担当する訓練犬とともに実地訓練する。また、それらに必要な項目の継続訓練を行う。

■到達目標

しつけ教室の企画構成および運営補助ができる

犬のしつけ方について、学習理論を中心とした訓練方法を理解し、説明できる

グループ活動により、コミュニケーションスキルを養う

■成績評価の方法等

出席点、資格試験、しつけ教室・発表会などの取り組み姿勢

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

回数	授 業 内 容
1～30	しつけ教室概論および実習
31～35	AAA活動（準備、実践）
36～77	継続訓練実習
78～86	発表リハーサルおよび実践
86～90	試験

能力開発実習

ドッグトレーナー科

2年次

通年

60時間

必修

専門科目

2単位

実践

職業実践科目

■授業の概要

当校が行っている使役訓練犬（チーム犬）に対し、搜索項目（災害救助犬）、聴導項目もしくは盲導項目より学生自身が選択し、チームで継続訓練する

■到達目標

高等訓練技術を習得する

チームワークの重要性を理解し、主体的に行動できる

■成績評価の方法等

出席点、資格試験、授業の取り組み姿勢

■授業計画（回数は、月間時間割に準ずる）

回数	授 業 内 容
1～4	ガイダンス ・チーム犬とは・実習の行い方など
5～8	トレーニングスケジュールを立てる ・年次課題の発表・チーム目標の決定・選択した使役犬の社会的役割などを調査する
9～10	使役犬の見学講習会
11～48	継続訓練
49～58	成果発表会 ・10月と2月に行う成果発表会の目的と大まかな流れ ・発表会の企画構成、チーム内練習、全体リハーサル
59～60	1年生への訓練説明、引継ぎ

